

証券コード：6748

SEIWA

創意 ⊕ 革新

モノづくりの原点を見つめ、これから変わるもの変わらぬもの。

2021年12月期

2022年3月1日収録

決算説明

星和電機株式会社

動画 URL : <https://www.seiwa.co.jp/ir/kessan.html>

- 1. 当社グループの概要**
- 2. 決算概要**
- 3. 中期経営方針について**
- 4. 当期の取り組み事例について**
- 5. 2022年12月期の業績見通しについて**

1. 当社グループの概要

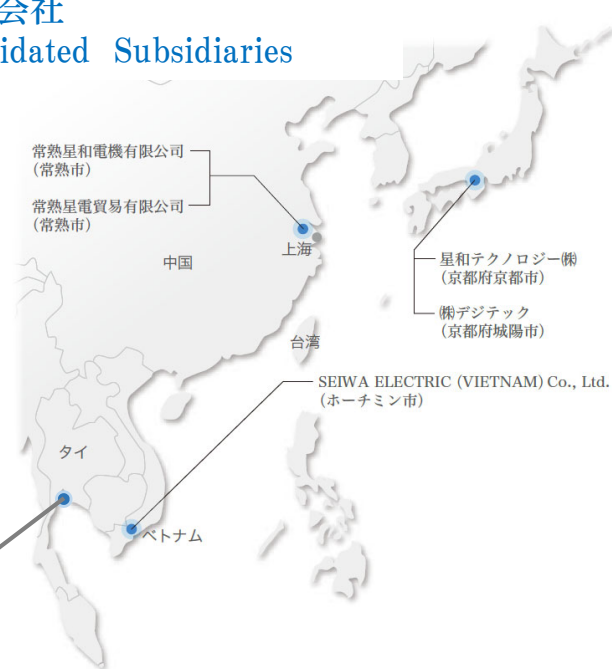
創業	昭和20年（1945年）10月1日
設立	昭和24年（1949年）1月18日
公開市場	東京証券取引所 第一部
本社所在地	京都府城陽市寺田新池36番地
資本金	36億48百万円
従業員数（2021年12月31日現在）	518名（108名）（ ）内は臨時従業員の年間平均人数



■ 支社・営業所・駐在員事務所 Branches & Sales Offices



■ 連結子会社 Consolidated Subsidiaries



Information System

情報機器事業

- 情報表示システム



Lighting

照明機器事業

- 道路・トンネル照明機器
- 産業用照明機器
- 照明用LEDモジュール製品



Component

コンポーネント事業

- 配線保護機材
- 電磁波環境対策部品



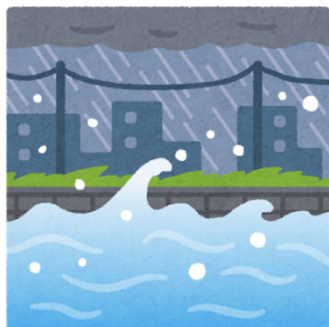
Information System

情報機器事業

道路・トンネル



河川・海



道路情報表示板



トンネル警報表示板
(トンネル防災システム)



LED式信号機



津波情報表示システム



河川円形表示板



放流警報表示板



無停電電源装置
Lio UPS III

Lighting

照明機器事業

公共設備関連



トンネル照明

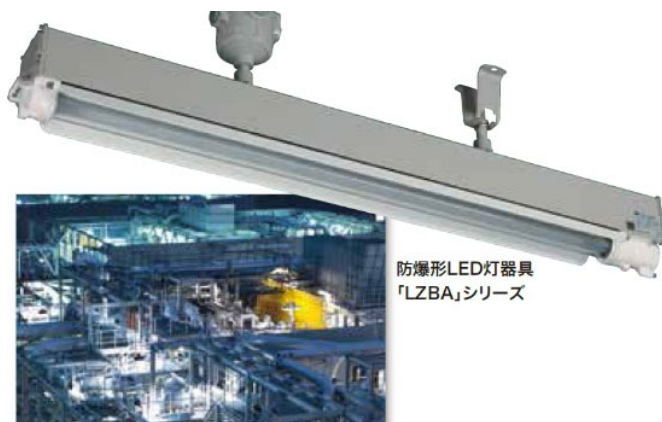


道路灯



景観照明

民間設備関連



防爆形LED灯器具
「LZBA」シリーズ

防爆形LED灯器具



海外向け防爆形LED灯器具



UV-Cソリューション製品



盤内用ラインLED照明
「LMAD」シリーズ

LEDワークランプ
「LMNA」シリーズ

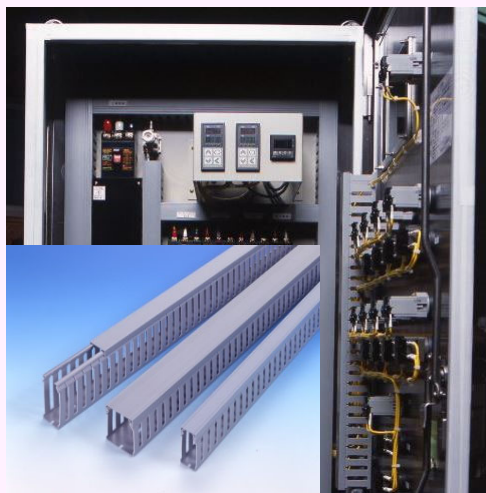
照明用LEDモジュール製品

Component

コンポーネント事業

配線保護機材

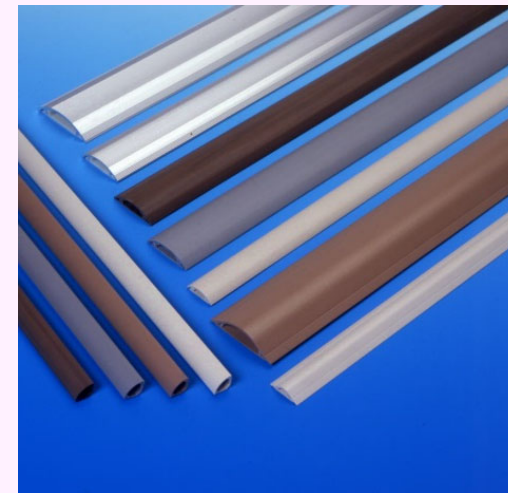
カッチングダクト



エスシーロック



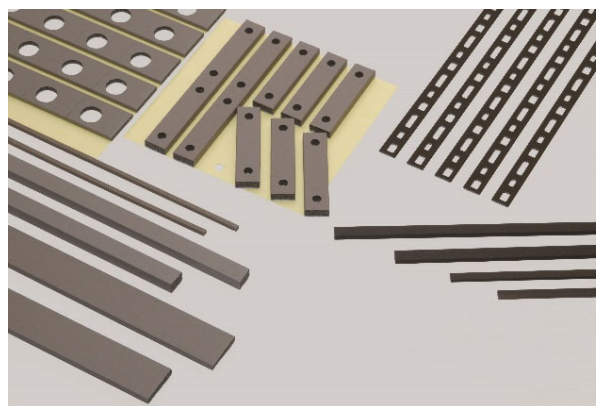
UDプロテクタ



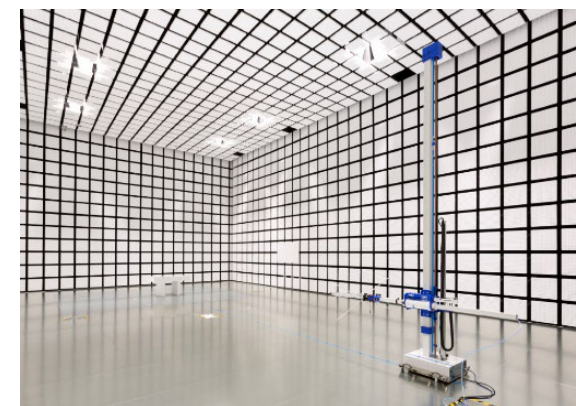
電磁波環境対策部品



フェライトコア



ガスケット

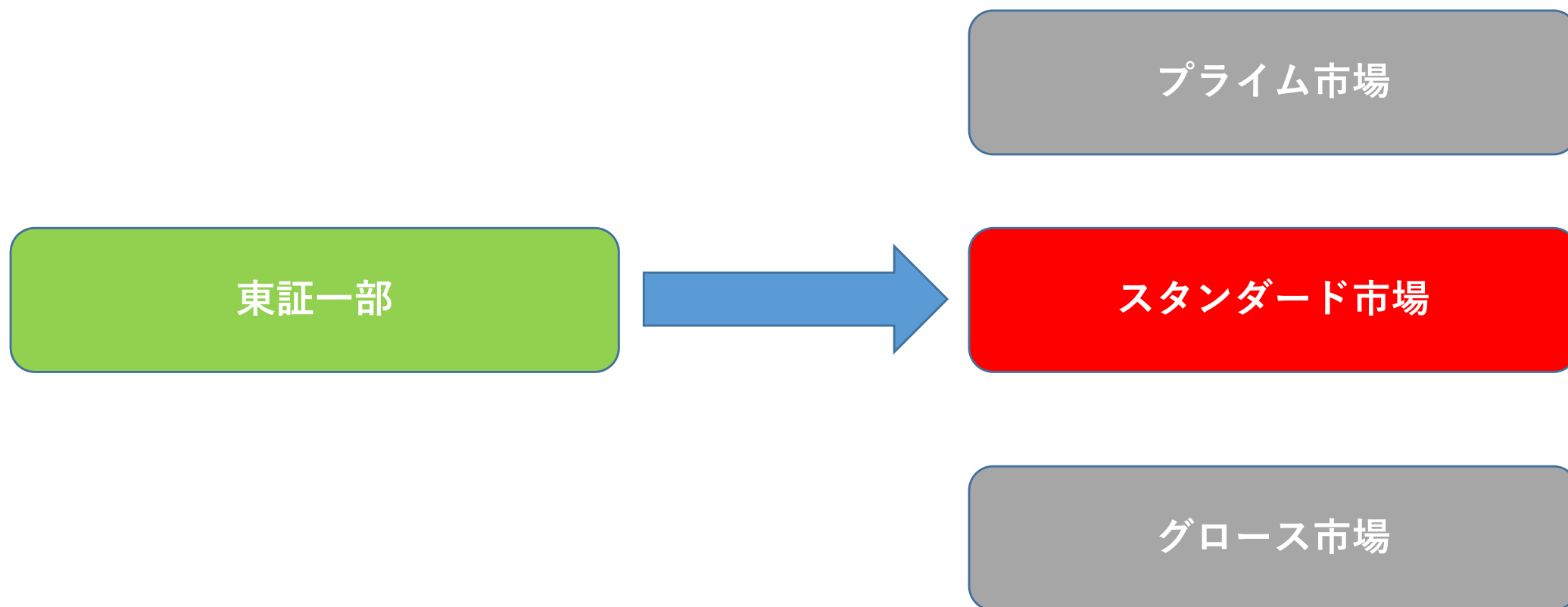


電波暗室

2. 決算概要

スタンダード市場を選択

2022年4月4日より、
東京証券取引所の新市場区分におけるスタンダード市場に移行



決算期変更について

SEIWA

2020年12月期（前期）より決算日（事業年度の末日）を3月31日→**12月31日**に変更
※決算期が12月31日以外の連結子会社も変更

前年同一期間について

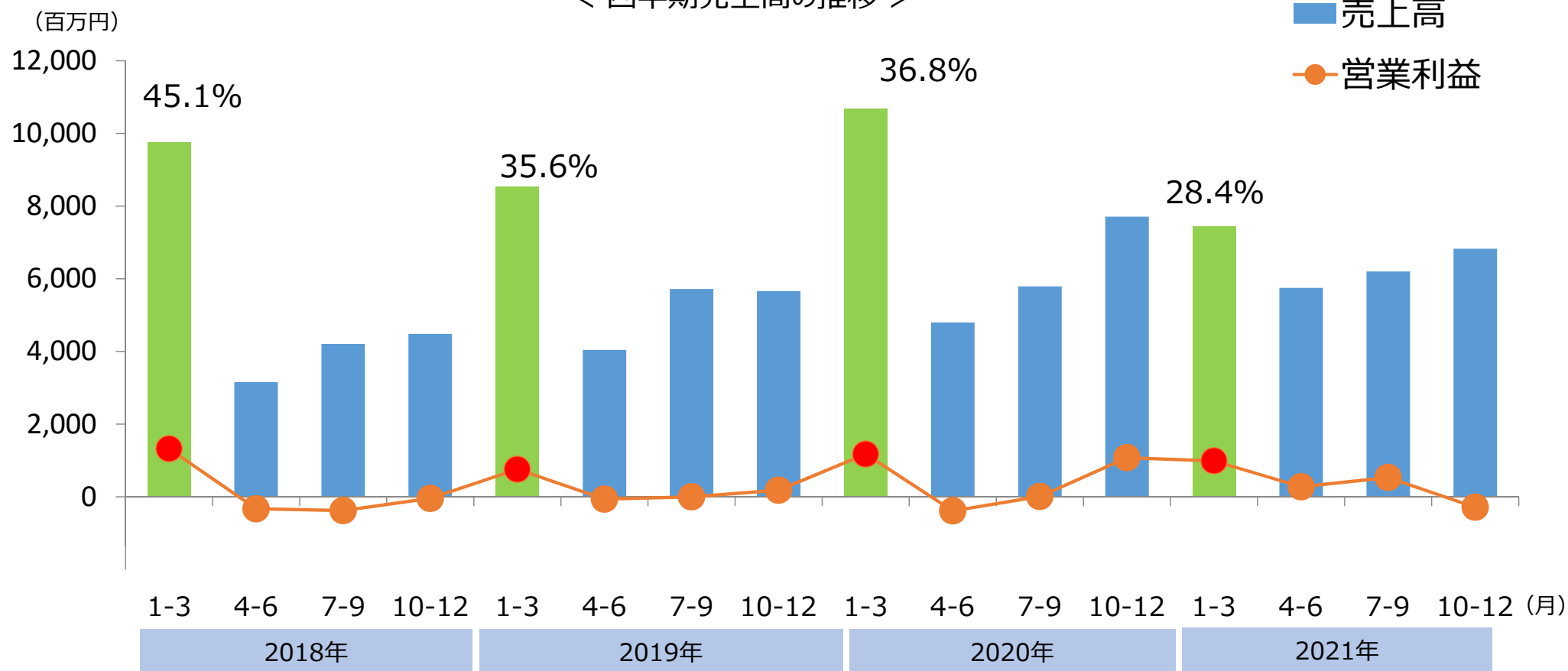
本資料上で同一期間と比較するために、前年の実績を12か月に組み替えております。実績を加減算したもので、決算特有の処理については考慮していません。

	前年同一期間	当期
第1四半期	2020年1月1日～2020年3月31日	2021年1月1日～2021年3月31日
第2四半期	2020年1月1日～2020年6月30日	2021年1月1日～2021年6月30日
第3四半期	2020年1月1日～2020年9月30日	2021年1月1日～2021年9月30日
通期	2020年1月1日～2020年12月31日	2021年1月1日～2021年12月31日

売上高及び利益の季節変動

- 官公庁関連組織向けの納入時期が1月から3月までに集中するため、1月から3月までの売上高及び利益が高くなる傾向がある

＜ 四半期売上高の推移 ＞



1月～3月の年間売上高に占める比率

2018年～2020年 1月1日～12月31日の連結売上高に対する比率

2021年 連結売上高に対する比率

■ 売上高 前年同一期間(2020年1月1日~2020年12月31日) より9.4%減少

増加：エアコン用配管保護機材、電磁波環境対策部品

減少：道路情報機器、トンネル照明器具他

■ 営業利益 前年同一期間(2020年1月1日~2020年12月31日) より20.9%減少

道路情報機器及び産業用照明器具の減益により、情報機器事業及び照明機器事業が減益

(単位：百万円)

	前年同一期間 2020年1月-12月	2021年12月期	増減	増減率(%)
売上高	28,966	26,230	△2,736	△9.4
売上総利益	5,834	5,412	△421	△7.2
販管費	3,964	3,932	△31	△0.8
営業利益	1,869	1,479	△390	△20.9
経常利益	1,827	1,445	△382	△20.9
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,539	909	△629	△40.9
自己資本当期純利益率(%)	13.6	7.2	△6.4PT	—
総資産経常利益率(%)	6.9	5.0	△1.9PT	—
売上高営業利益率(%)	6.5	5.6	△0.9PT	—

(官需比率)

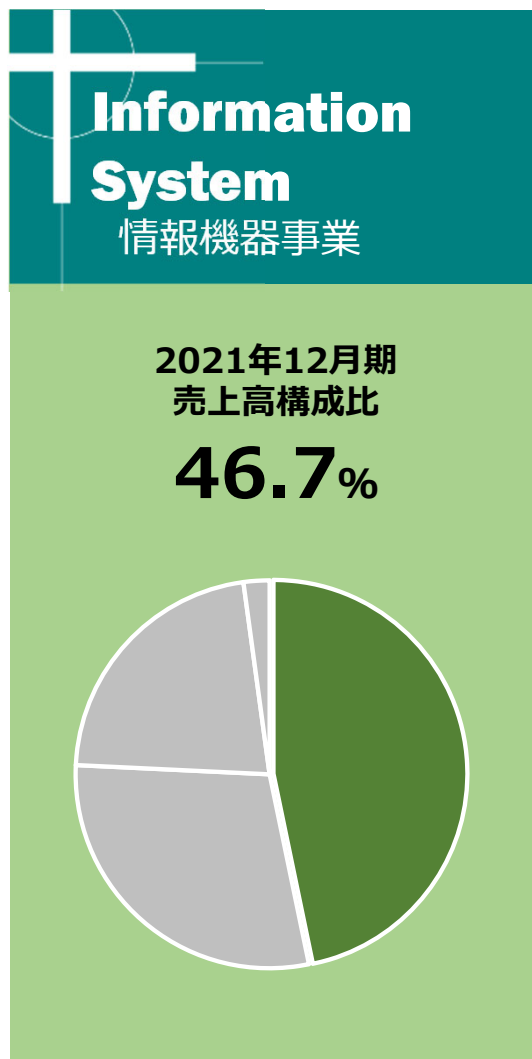
60%

56%

セグメント別の状況 ①情報機器事業

SEIWA

(単位：百万円)



	前年同一期間 2020年1月-12月	2021年12月期	増減	増減率(%)
売上高	14,331	12,260	△2,071	△14.5
セグメント利益	1,904	1,773	△131	△6.9
受注高	15,299	9,673	△5,626	△36.8
受注残高	12,028	9,380	△2,647	△22.0

売上高 期初の受注残高を背景に売上高を伸ばしたが、前年同一期間に比べ高速道路向け、一般道路向けともに減少

利益 計画的な生産による原価低減や経費節減により利益を伸ばしたが、前年同一期間に比べ減少

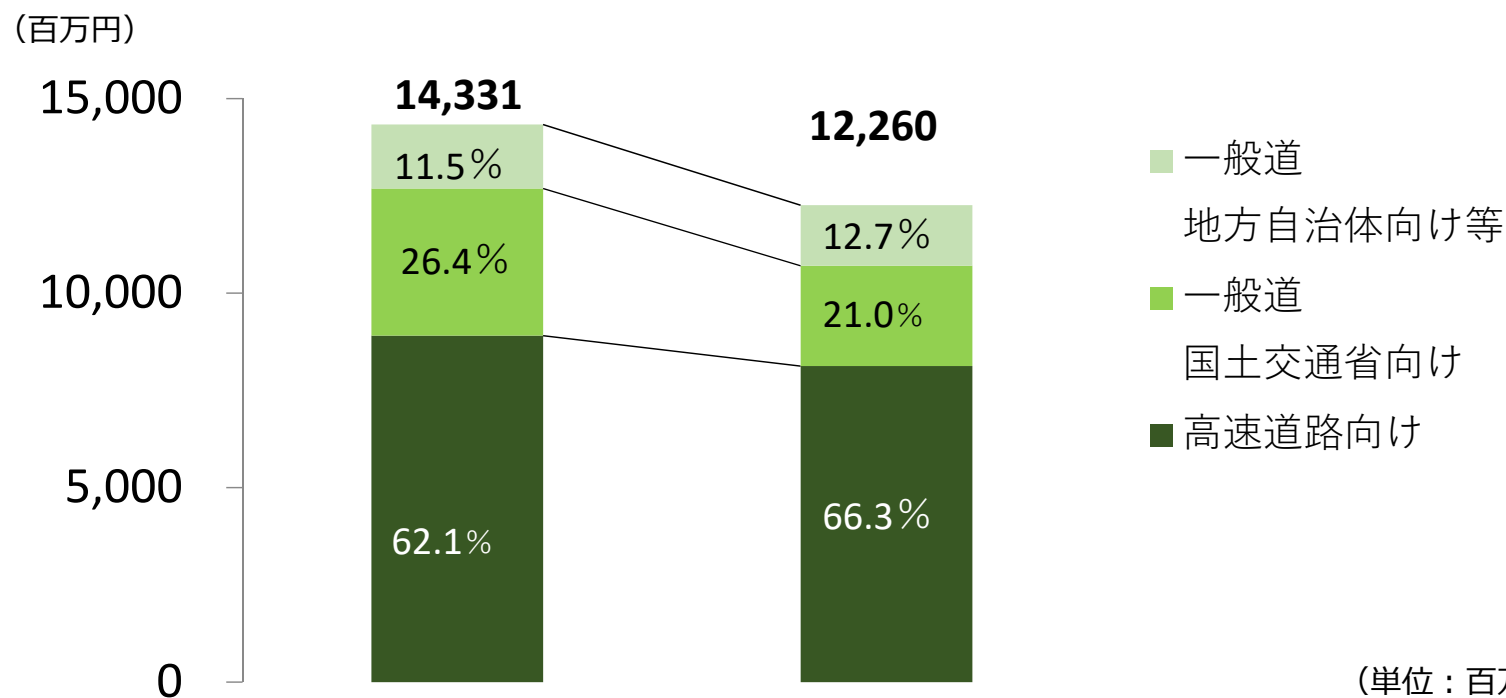
受注残高 期中の受注高の減少により受注残高は減少

- 新型コロナウイルス感染症による影響
サプライチェーンの乱れによる部材調達の遅延など

セグメント別の状況 ①情報機器事業

SEIWA

市場別売上高

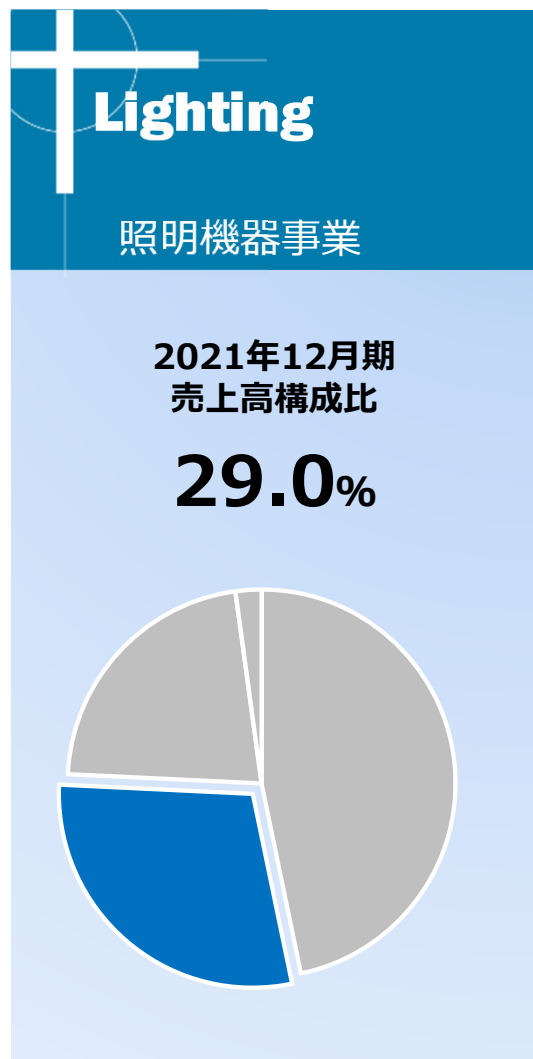


	前年同一期間 2020年1月-12月	2021年12期	増減	増減率(%)
■ 高速道路向け	8,904	8,123	△780	△8.8
■ 一般道 国土交通省向け	3,784	2,578	△1,206	△31.9
■ 一般道 地方自治体向け等	1,643	1,558	△84	△5.1

セグメント別の状況 ②照明機器事業

SEIWA

(単位：百万円)



	前年同一期間 2020年1月-12月	2021年12月期	増減	増減率(%)
売上高	8,801	7,609	△1,191	△13.5
セグメント利益	810	479	△331	△40.9
受注高	7,982	8,054	71	0.9
受注残高	1,745	2,250	504	28.9

売上高 産業用照明器具及びトンネル照明器具が減少

利益 減収による減益

受注残高 期中の受注は前年同一期間並みだが、部品の長納期化に伴う生産リードタイムの長期化により受注残高が増加

■新型コロナウイルス感染症による影響

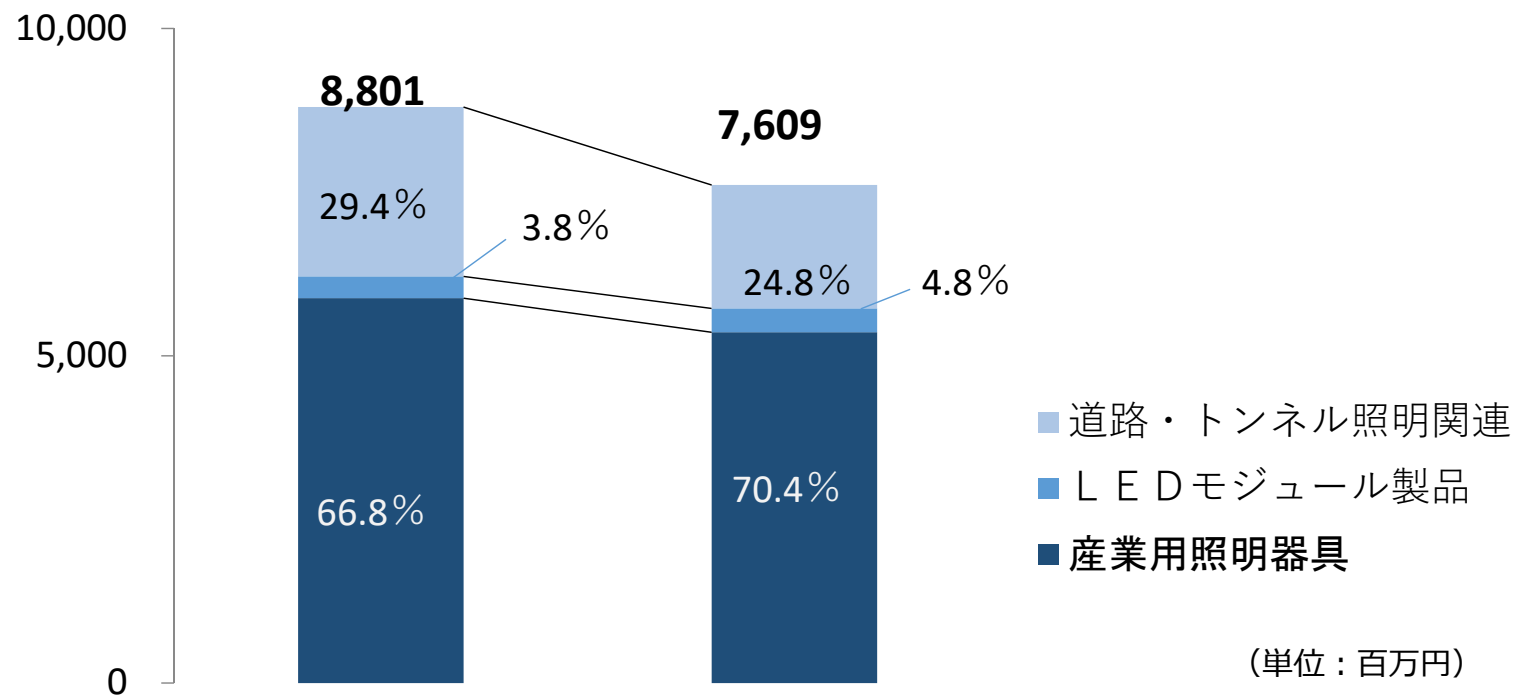
産業用照明器具において、定期修理工事の小規模化や延期及び調達面での納期遅延など

セグメント別の状況 ②照明機器事業

SEIWA

製品群別売上高

(百万円)

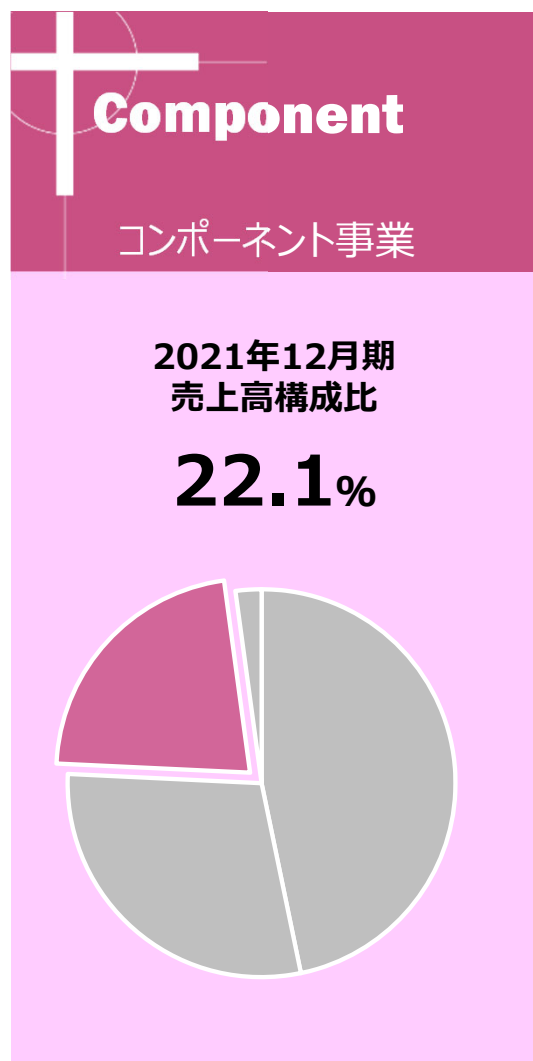


	前年同一期間 2020年1月-12月	2021年12月期	増減	増減率(%)
■ 産業用照明器具	5,879	5,359	△520	△8.8
■ LEDモジュール製品	333	363	29	8.7
■ 道路・トンネル照明関連	2,587	1,887	△700	△27.1

セグメント別の状況 ③コンポーネント事業

SEIWA

(単位：百万円)



	前年同一期間 2020年1月-12月	2021年12月期	増減	増減率(%)
売上高	5,248	5,793	544	10.4
セグメント利益	576	614	38	6.7
受注高	5,311	6,741	1,430	26.9
受注残高	259	1,193	933	359.6

売上高 産業用配線保護機材、エアコン用配管保護機材
電磁波環境対策部品とも増加

利益 増収による増益

受注残高 期中の受注高の増加及び部品や材料の長納期化により
受注残高が増加

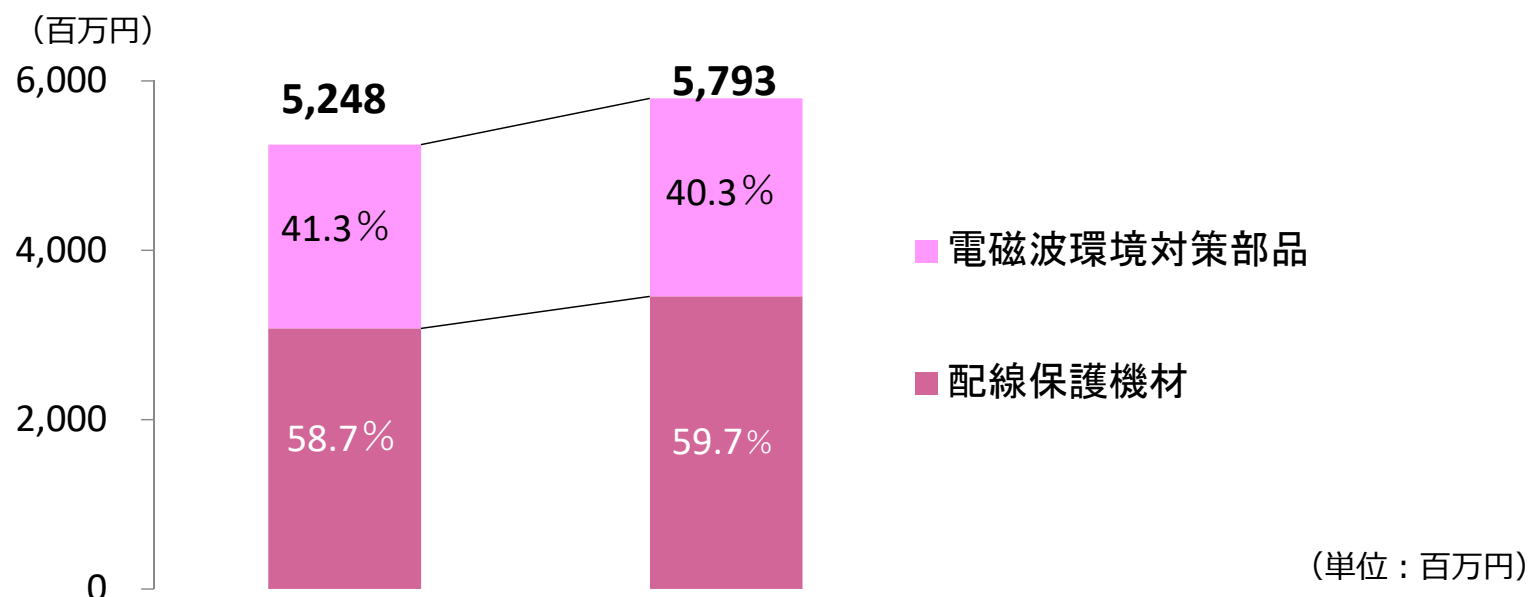
■新型コロナウイルス感染症による影響

サプライチェーンの乱れによる原材料調達の遅延など

セグメント別の状況 ③コンポーネント事業

SEIWA

市場別売上高



	前年同一期間 2020年1月-12月	2021年12月期	増減	増減率(%)
■配線保護機材	3,078	3,456	378	12.3
■電磁波環境対策部品	2,170	2,337	166	7.7

(単位：百万円)

	2020年12月期	2021年12月期	増減
資産	27,391	30,143	2,752
流動資産	19,676	21,582	1,905
受取手形及び売掛金他	12,762	14,240	1,477
固定資産	7,714	8,561	847
有形固定資産	3,013	3,271	257
負債	15,340	16,940	1,600
流動負債	13,970	15,616	1,646
短期・1年内返済予定長期借入金	7,114	8,482	1,367
固定負債	1,369	1,324	△45
純資産	12,050	13,202	1,151
利益剰余金	3,431	4,209	777
非支配株主持分	23	26	2
総資産	27,391	30,143	2,752
<自己資本比率>	43.9%	43.7%	△0.2PT

- 資産 工事進行基準物件の売上増加に伴う売上債権の増加と大型測定施設新設による固定資産の増加
- 負債 運転資金確保のための資金調達による短期借入金の増加
- 純資産 親会社株主に帰属する当期純利益の計上により利益剰余金が増加

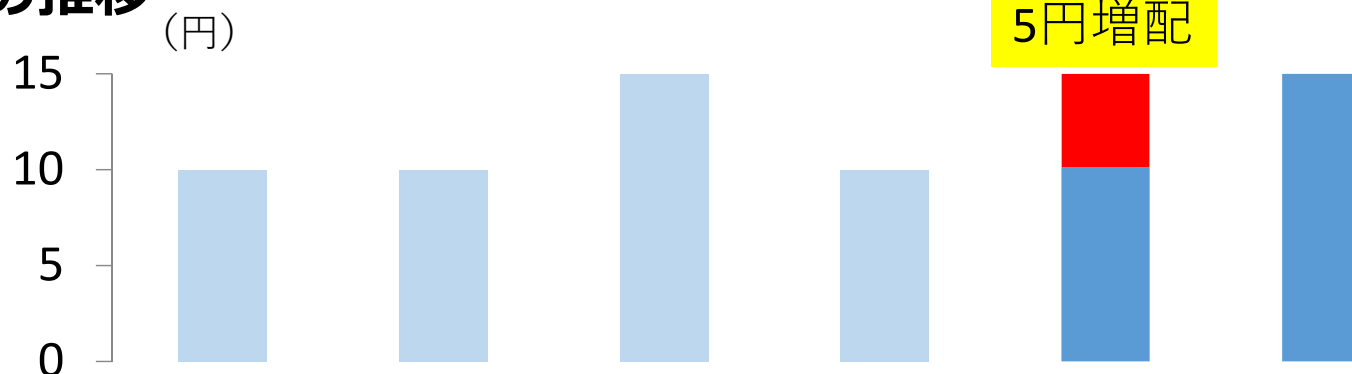
※比較対象となる前連結対象年度は9か月のため、対前期比較は記載していません。

- 営業キャッシュ・フロー 売上債権の増加等により47百万円の獲得
- 投資キャッシュ・フロー 有形固定資産及び無形固定資産の取得により8億円の使用
- 財務キャッシュ・フロー 短期借入金の借入等により9億6百万円の獲得

(単位：百万円)

	2021年12月期
営業キャッシュ・フロー	47
税金等調整前当期純利益	1,436
減価償却費	633
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,463
投資キャッシュ・フロー	△ 801
有形固定資産の取得による支出	△ 736
無形固定資産の取得による支出	△ 163
財務キャッシュ・フロー	906
短期借入金の純増減額	1,500
長期借入金の返済による支出	△ 861
現金及び現金同等物 期中増減額	231
現金及び現金同等物 期末残高	2,191

■ 1株当たり配当の推移



決算年月	18/3	19/3	20/3	20/12	21/12	22/12(予)
1株当たり配当額 (円)	10	10	15	10	15	15
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

■ 配当方針

株主に対する安定配当の維持と将来の事業展開のための内部留保の充実を考慮して、毎事業年度における業績と財務状況等を総合的に勘案する

■ 当期の配当について

上記方針に基づき、1株当たり15円とさせていただきます。

3. 中期経営方針について

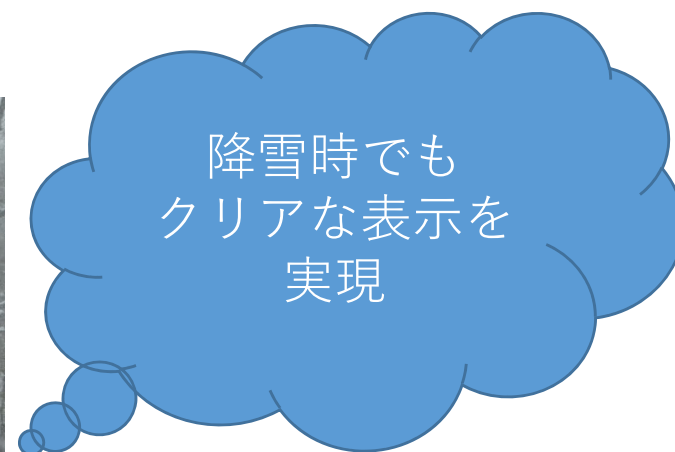
**“インテリジェント・プロダクト” を実現し、
高い製造力を実現する。**

4. 当期の取り組み事例について

Information System 情報機器事業

より視覚的で多彩な道路情報を提供

高精細で無線通信が可能
色も15色から10万色
文字・図形にくわえ、
写真や動画が表示可



Lighting

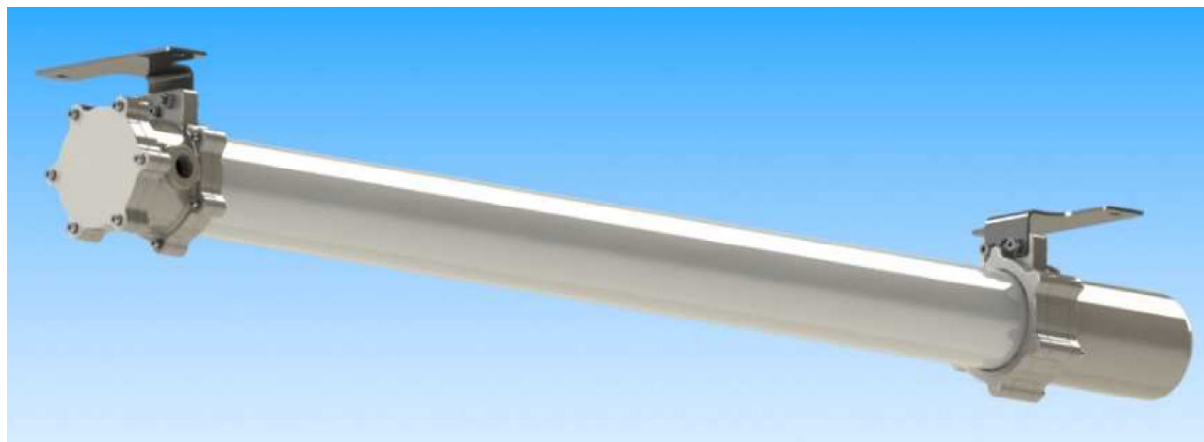
照明機器事業

安全増防爆形LED灯器具 (WLGPA)

東アジア・東南アジアでの使用を想定した仕様

- ・すべての可燃性ガスに対応
- ・軽量化を実現（従来機種より77%Down）
- ・ポリカーボネート製（破損事故の低減）
- ・耐雷サージ性能向上
- ・過酷な環境下で使用可

国際認証を取得



TIS 1955-2551

取り組み事例③ EMCソリューションサービスの提供 SEIWA

Component

コンポーネント事業

SEIWA EMC Technical Center (10m法電波暗室) が完成
新しいEMC市場の開拓、創出の起点に



10m法電波暗室(暗室内有効内寸)
19.0m (L) ×11.0m (W)×7.6m (H)

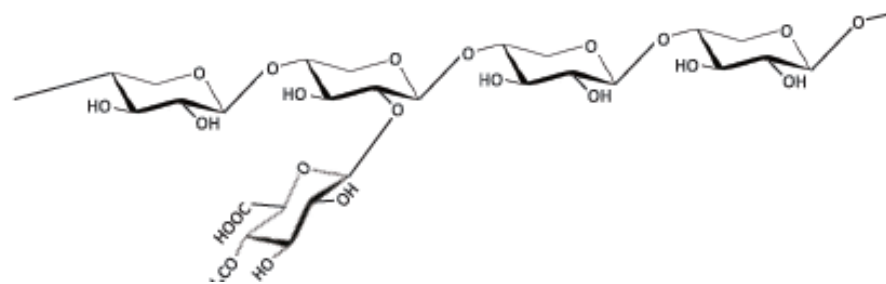
3m法電波暗室(暗室内有効内寸)
9.7m (L) ×6.2m (W)×5.2m (H)

高比表面積キャパシタ炭素電極の開発

- ・細孔が豊富に含まれる高比表面積の多孔質炭素材料を開発
- ・査読付き国際学術誌「Energy & Environmental Materials」に論文掲載

「令和3年度日本応用糖質科学会 技術開発賞」を受賞

- ・天然糖質のグルクロノキシランの効果的な抽出となる製造技術を開発



グルクロノキシラン部分構造





星和電機株式会社は

「人材の開発と相互信頼に努め、新技術に挑戦して、社会に貢献する。」
 という経営理念のもと国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)に賛同し、
 持続可能な社会の実現につとめることを宣言いたします。

2021年9月1日
 星和電機株式会社
 代表取締役社長 増山晃章

当社のSDGsへの貢献

モノづくり



人・組織



環境



社会貢献



5. 2022年12月期の業績見通しについて

2022年12月期の業績見通し

SEIWA

- 売上高 248億円
- 利益 営業利益 13億円 経常利益 13億円
親会社株主に帰属する当期純利益 9億円

(単位：百万円)

	2021年12月期	2022年12月期 予想	増減	増減率(%)
売上高	26,230	24,800	△1,430	△5.5
情報機器	12,260	10,000	△2,260	△18.4
照明機器	7,609	8,450	840	11.0
コンポーネント	5,793	5,900	106	1.8
その他	565	450	△115	△20.4
営業利益	1,479	1,300	△179	△12.1
経常利益	1,445	1,300	△145	△10.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	909	900	△9	△1.0

次期(2022年12月期)業績見通し

SEIWA

公共事業の継続や大企業を中心とした積極的な設備投資姿勢は期待できる
半導体・樹脂材料の供給不足、燃料価格・原材料価格及び海上運賃高騰など予断を許さない状況が継続

事業別の見通しと方針



Information System
情報機器事業

見通し：公共事業の継続
方針：期初の受注残高に加えて更なる受注の確保
効率的な生産と品質の確保



Lighting
照明機器事業

公共設備関連
見通し：公共事業の継続
方針：トンネル照明器具の新製品を中心とした提案営業活動による受注の確保
民間設備関連
見通し：設備投資が継続的に行われる
方針：LED照明器具の新製品の開発及び拡販



Component
コンポーネント事業

見通し：半導体・産業用装置市場の活発化
方針：新製品の投入や新規市場の開拓、EMCソリューションサービスの展開

利益面：全事業においてコスト削減と生産性の向上による収益性の改善に努める

星和電機株式会社

TEL: 0774-55-8181

FAX: 0774-58-2034

E-mail: info@seiwa.co.jp

<https://www.seiwa.co.jp>

当資料には、2022年3月1日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関するリスクや不確定要素により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

なお、新型コロナウイルス感染拡大による影響は不確定要素が多く、今後想定外の状況となった場合には将来の業績に影響を与える可能性があります。